

編集後記

19期編集委員会は、総勢20名でスタートしました。昨年度の1次募集への応募者が、わずか5名であったことと比べると、大きな変化です。この変化の要因としては、修習生が委員に応募したこと、オンラインによるリモート会議が可能となったこと等があると思われます。他方で、修習生については、修習における業務で忙しく、委員との両立が難しい場面が多々ありました。しかし、学生委員の皆様、教員委員の先生方のご協力により無事、今日を迎えられました。この場をお借りして感謝申し上げます。

また、19巻の投稿募集において、投稿いただいた学生論稿の数は、昨年度の7本よりも多く11本となりました。これは、前編集委員長による熱心な投稿の勧誘があったからであると思われます。他方で、編集委員の構成を見ますと、在学生は、昨年度に比べ、半分に減少しております。在学生の委員の減少に対処するべく、本年度は、前年度における投稿の勧誘・編集委員の募集についての勧誘方法を踏襲しつつも、さらに、新しい取り組みを行いました。紙幅の関係上、具体的な取り組みについては、割愛いたしますが、この取り組みが奏功することを期待しております。

来年度は、東京大学法科大学院ローレビュー編集委員会の発足から20周年という節目の年を迎えます。本法科大学院ローレビューは、米国のロースクールで刊行されているローレビューから着想を得て創設され、以来、学生による論文の発表の場を提供してまいりました。同時に、本法科大学院ローレビューは、教員の先生方による論文の掲載も行っておりまいた。本年度は、実務家教員でいらっしゃる梅林先生、羽深先生及び、中国会社法・証券法の研究者でいらっしゃる朱先生より論稿を投稿していただきました。こうした、実務家、法学研究者の先生方による論稿の投稿により実務からの信頼が厚いことは、確かです。他方で、本法科大学院ローレビューが学生による研究成果を公表する場としての役割を果たしているかは、常に考える必要がございます。学生による論稿の投稿数と共にこれを審査する編集委員を増やすことが必要です。なによりも、編集委員は、東京大学法科大学院ローレビュー編集委員会の担い手であるという自覚が必要であると思います。本法科大学院ローレビュー編集委員会を信頼し、論稿を投稿していただいている以上、本法科大学院ローレビュー編集委員としての役割とその責任を深く自覚しなければなりません。今後も、各委員が職責を自覚し、本法科大学院ローレビューに対する期待に応えられるように、委員会全体での編集委員としての意識の共有、より一層の意識の向上を図ることに尽力し続けてまいります。

最後に、お忙しい中、審査報告書を作成してくださった先生方、論稿を投稿してくださった学生の皆様・先生方、校正作業において迅速に対応してくださった商事法務の皆様、その他ご助力くださった方々に深く感謝申し上げます。今後も本誌が広く読まれ、発展していくことを祈念しております。

東京大学法科大学院ローレビュー第19期編集委員長 石塚将人

御礼

東京大学法科大学院ローレビューは、前号(第18巻)に引き続き、本号(第19巻)も渡部友一郎氏(弁護士・Airbnb)からのご寄付によって刊行されています。

ここに記して、御礼申し上げます。

東京大学大学院法学政治学研究科

東京大学法科大学院ローレビュー

The University of Tokyo Law Review

Vol.19 2024年12月発行

編集・発行 東京大学法科大学院ローレビュー編集委員会

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻内

E-mail: sl-lr@j.u-tokyo.ac.jp

<http://www.sl-lr.j.u-tokyo.ac.jp/>



※東京大学法科大学院ローレビュー編集委員会へのご連絡は、E-mailにてお願いいたします。

※法律で認められた場合をのぞき、本誌からのコピーを禁じます。